

## 第3章－6. 『購買』材料の部品表設定と発注の考え方

**AToMsQube** での部品表登録は親1個当りの構成部品番取り数を設定する様になっている為材料などの素材から部品表を登録する場合には以下の部分を考慮する必要があります。

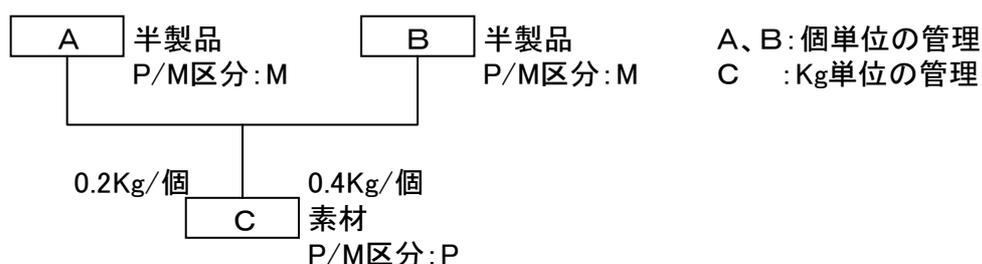
### 【材料から親品目1個が取れる値を設定する事】

その設定方法は、鋼板1枚から切断する1個分の重量であったり、丸棒1本からの1個分の長さであったり、材料の取り方で設定値と単位が変わってきます。

また、一つの材料から複数の親を製造している場合などは（共材品番）、同一材料を使用していると判断が付く様に素材用品番に材質記号や寸法を設定して、材料単位の必要量が計算出来る様に考慮する必要があります。

さらに、材料の発注単位が鋼板1枚単位や鋼材1本単位など、部品表の親子関係の取り数単位と違う場合鋼板1枚、丸棒1本の単位にまるめる為のロットサイズを設定する事が必要となります。

### 部品表のイメージ図



※発注単位がKgで100Kg（1本分相当）の場合

Cのロットサイズを100と設定して、100（Kg）単位の発注をする必要があります。

※発注単位が本単位の場合

2012年6月の改訂で、単位換算機能が導入される予定ですので、Kgから本への発注/受入の単位換算が可能になります。（受注/出荷の単位換算は導入未定）

具体例①

発注を購入単位重量（形状）で行っている場合

品番設定単位	購入する材料を表すコードをそのまま品番として設定 例) 材質記号、寸法
	購入単位重量を重量欄に設定
手配情報	購入単位重量や長さで発注が丸まる様に、ロットサイズを設定
親取り数	材料から製造する親1個当りの取り数を設定
発注単価	購入単位重量の発注単価を設定

※通常の部品表と同様に親の1個当たり取数に、構成品の必要数を設定する。



具体例②

発注を切断後状態((個単位に数えられる状態))から行っている場合

品番設定単位	切断後の材料を表すコードを品番として設定 例) 親品番の後ろの桁に設定
	単位重量を重量欄に設定
	Kg発注用の項目として材質記号を設定
手配情報	必要があれば発注まるめを行なう様に、ロットサイズを設定
親取り数	親1個当りの取り数を1個(枚)と設定
発注単価	1個当り発注 購入単位重量の発注単価を設定
	Kg単位発注 必要な切断後品番の重量をサマリーした重量とKg単価を掛けて設定 Kg単価を管理するマスタが必要

※材料を発注する場合には、材料の単位発注単価の管理と発注量を集計する機能を検討する必要があります。

